

食は、人間が生きていく上で欠かすことのできない大切なものであり、健康な生活を送るためには、健全な食生活は欠かせません。また、おいしく楽しく食べることで、人に生きる喜びや楽しさを与えたり、人と人との絆を深めたりもします。

しかし、市において食育に関心がある人の割合は85.4%と高いものの、実際に何らかの行動として実践できている人は41.1%にとどまっています。また、食べることの勉強が大切だと思ふ小・中学生の割合は72%と低く、朝食については17.2%の児童生徒が食べていないという実態があります。（令和元年「市民・小学生・中学生意識調査」より）

そこで、市全体として今年度「第2次泉佐野市健康増進計画・食育推進計画」を策定し、令和2年度からの6カ年を計画期間に、健康づくりと食育を一体的に推進していく取組を始めたところとす。各小・中学校においては、食に関する指導として①食の重要性②心身の健康③食品を選択する能力④感謝の心⑤社会性⑥食文化の6つの視点に基づいて目標を立て、給食の時間を中心に、各教科の時間にお

学校における食育の推進について

いずみさの教育



問合先
学校教育課

いても食育の視点を取り入れながら取組を進めています。主食・主菜・副菜がそろい、栄養バランスが考えられた給食を生きた教材として、自身の健康について考えさせたり、食料の生産などに関わる人々への感謝の心を育んだり、市の特産品について知らせたりもしています。これらの取組を通じて、子どもたちに望ましい食習慣を身に付けさせるとともに、食文化の継承も図っていきたくと考えています。

また、各校で給食委員会などが中心となり、子どもたち自らが主体的に食について考えていくことで、食事が大切なコミュニケーションの場であることを理解し、相手を思いやることや、楽しい食事につなげるためには何が必要かを考えることもできるように、取組を進めています。子どもの食育は、学校において取り組むだけでなく、学校・家庭・地域が連携して、次代を担う子どもの食環境の改善に努めることが必要です。三者がつながり、環（わ）となつて健康づくりと食育に取り組んでいきましょう。



学校園紹介



特色を生かした楽しい学校
～第三小学校～



本校は、市内であればどの校区からも通うことのできる特認校として、教育活動を進めている学校です。現在133人の子どもたちが、元気に学校生活を送っています。本校の特色の一つに、学校敷地内にあるたくさんの果樹が挙げられます。今年度は子どもたちが臨時休業中であつたため、サクランボの収穫は断念しましたが、先日、ウメの収穫を行いました。分散登校だったため6年生は2班に分かれ、脚立を使いながら、ウメの木に登り、実を丁寧に採りました。収穫したウメは凍らせて氷砂糖と一緒に各学年の子どもたち用に準備した容器に入れ「ウメジュース」にしました。できあがったジュースは、クラスごとに飲む機会を設けました。「おいしい」「今から来年が楽しみ」という声がたくさん聞こえてきました。

また、本校はICT教育を先進的に取り組む学校として、1人1台のタブレットを借り受けています。校内ではネット環境を充実させ、子どもたちが自分のタブレットを使って学習する場面も多くあります。臨時休業中には家庭に持ち帰らせ、インターネット環境がなくても使えるタブレット内の教材を活用して学習しました。

今後はさらに活用の幅を広げていきたいと考えています。



地域とともに（いい学校はいい地域をつくり、いい地域はいい学校をつくる）～第三中学校～

本校では、「地域とともに地域をまきこんで」をテーマとした、毎年恒例の取組があります。毎週火曜日と金曜日の午前8時～8時30分の間、民生委員・児童委員さんとともにあいさつ運動を実施しています。夏は清掃ボランティア活動（通称：夏ボラ）が2回あります。生徒会が中心になり、生徒・教職員・地域のみなさんがともに活動します。第1回は校外外と鶴原駅周辺、第2回は、いこらも～と井原の里駅周辺の清掃活動および落書き消しなどを行いました。年間3回行われる青少年指導員主催の環境浄化活動にもたくさんの生徒が参加しています。



また、4月7日(火)に令和2年度の入学式が体育館で行われました。校長からは新入生に対し「自分を大切に、周りの人たちを大切に、有意義な中学校生活を送ってもらいたい」という話がありました。新入生は緊張した面持ちで、これから始まる中学校生活の期待を胸に凜とした空気で入学式を終えました。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため予定どおりおこなえるかわかりませんが、地域のみなさんの協力とともに子どもたちを見守っていきたくと思います。

